

令和6年10月28日発行

栗原普及センターだより

「くりはら」

158号



令和6年6月
たまねぎ収穫時の様子



令和6年9月
RTK現地研修会の様子



令和6年9月18日(水)、みやぎRTK利用拡大コンソーシアム現地研修会が栗原市栗駒で開催され、関係者や生産者およそ70名が参加しました。

(2ページ目に続く)

みやぎRTK利用拡大コンソーシアム現地研修会が開催されました

農業の担い手不足が進む中、省力化や生産性向上に向けて、県ではRTK基地局を整備し、令和5年度から運用を開始しています。また、RTK基地局を利用したスマート農業を普及拡大させるため産学官等が連携し、東北大学を事務局とする「みやぎRTK利用拡大コンソーシアム」を設立して、スマート農業技術の実証や推進を図っています。

今回はこのコンソーシアムの現地研修会として、ヤンマーアグリジャパン株式会社の協力のもと、RTKシステムを利用した直播たまねぎの畝立て同時播種や除草剤散布の実演を行いました。

畝立て同時播種の実演では、RTKを活用するこ

とにより畝の長さが100mを超える大区画ほ場でも直線かつ正確に畝が施工され、参加者からは驚きの声が挙がりました。また、RTK搭載ドローンの実演では、RTKシステムによりドローンの操作経験が少ない職員でも正確に操作できることを確認しました。

参加者からは、RTKを活用した直播たまねぎの作業体系など踏み込んだ質問もあり、関係者と意見交換を行うなど、非常に有意義な実演会となりました。

普及センターでは、スマート農業の普及拡大を加速化させるため、今後も活動していきます。

令和6年度水稻の作柄について

本年は、冬に降雪が少なく、春に雨が少なかった影響で用水不足となり、管内の田植盛期は5月15日で平年（過去5か年平均）と比べ1日遅くなりました。田植後の5月中～6月上旬は、気温が低い日があり活着や初期生育が遅れるほ場があったものの、6月中旬以降は、気温が高く、日照時間が多い日が続き、遅れていた生育は、平年並～やや少ない程度まで回復しました。

管内の出穂期は7月31日で平年（過去5か年平均）

と比べ2日早くなりました。出穂後も気温が高く、日照時間が多かったことから、出穂後の積算気温による刈取適期（ひとめぼれでは日平均気温の積算温度が940～1,100℃）は、7月31日（管内の出穂期）に出穂したほ場では、9月4日に刈取り適期を迎えました。

一方で、秋雨前線の影響で9月後半は雨となる日が多かったことから、刈取り作業の遅れが見られました。品質は、10月8日現在、ひとめぼれでは白未熟粒などが少なく良好となっています。

「畑（はた）わさび」の作付けについて

現在、中山間地域で畑わさびの栽培が注目されていますが、今回は、その概要についてご紹介します。

畑わさびは、これまで西日本を中心に栽培が行われていましたが、近年の気候変動の影響で生産量が減少し、東北地方での栽培が増えています。

県内では、令和4年から大崎市や加美町、色麻町での栽培が始まっています。

畑わさびは、清流を利用した「沢わさび」と分類上は同じですが、栽培は林地等の日陰を利用し、土の上で栽培します。

利用部位は主に、茎の部分になりますが、根に

ついても出荷が可能です。定植から収穫まで、およそ20か月必要で、生産物は、わさび加工業者による全量買い取りとなります。

栗原市では今年から数名の方が、小面積で栽培を始める予定です。栽培に興味のある方は、普及センターまでお問い合わせください。



【定植から約1年経過したほ場（加美町）】

畑わさびの年間栽培スケジュール（例）

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
1年目	ほ場準備 (除草、耕起、堆肥施用)			定植 ※1				防除 (殺虫剤)	追肥 ※2			防除 (殺虫剤)
2年目								防除 (殺虫剤)	追肥 ※2		収穫	収穫

※1 3,000本から4,500本/10a → 基本的には手作業

※2 緩効性肥料20kg/10a

普及センターでは土壌分析を随時受け付けています

1 土壌診断をするメリット

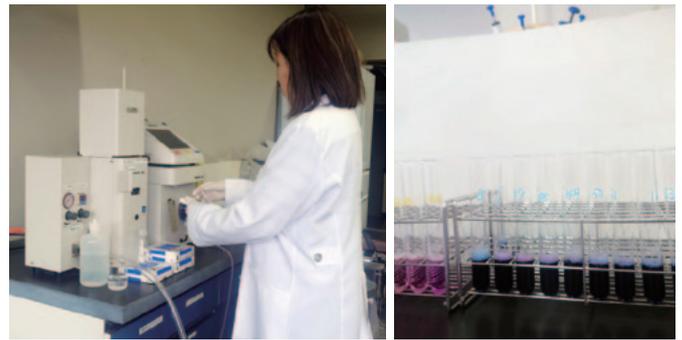
- ①土壌養分の過不足が分かり、適切に施肥できるようにするため収量・品質が安定します！
- ②土づくり資材等の適切な投入量が分かることで、施肥コストを減らすことができる可能性があります！
⇒土壌診断は「土の健康診断」です。作毎の診断をおすすめします。

2 土の採取方法について

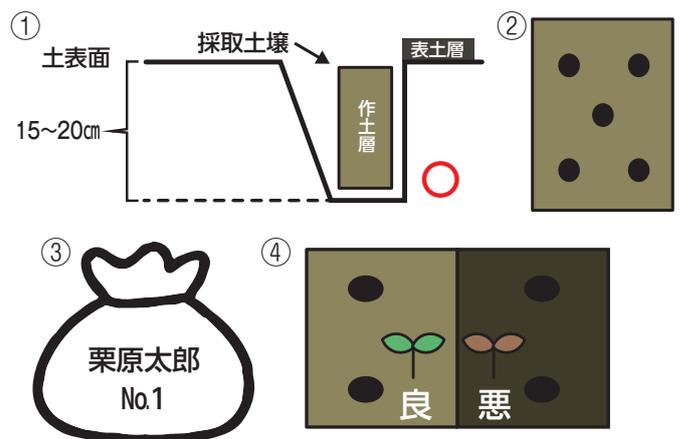
- ①表面の表土層や植物残さなどを除き、作土層15~20cmから土を採取する。
- ②1つのほ場から5カ所採取したものをよく混合し、1点にまとめる。そこから、ご飯茶碗1杯分ぐらいを取り分ける。
- ③分析結果をお返しするときに分類できるように、土を入れた袋や容器には名前と番号を必ず記載する。
- ④生育不良が見られるほ場では、良いところと悪いところに分けて、それぞれ採取する。

3 注意点など

- ①土の受付は普及センターまたはJA各営農センターで行っています。結果は通常2週間ほどでお知らせいたします。



【土壌分析機器によるカルシウム測定の様子】



- ②施肥設計に活用する際は原則「施肥する前」に土を採取してください。
- ③土壌分析で分からないことがありましたら、普及センターまでお気軽にご相談下さい。

今年度新たに認定された農業士の皆様を紹介します！

県では、優れた農業経営を実践して、地域農業の振興及び農村青少年等の育成に貢献している農業者を、指導農業士又は青年農業士として認定しています。今号と次号で3名ずつ紹介します。



①指導農業士 鈴木 善典さん(栗原市若柳)

野菜(きゅうり)栽培を主体とした農業経営を行い、JAきゅうり部会の活動等を通じて園芸振興に努めています。平成29年度から青年農業士として活動いただきましたが、今年度からは指導農業士として引き続き活動していただきます。また、栗原市農業委員会の農地利用最適化推進委員として地域の農地利用調整にも取り組まれています。



②青年農業士 遊佐 誠義さん(栗原市一迫)

水稲と肉用牛(繁殖)の複合経営を行っています。経営規模拡大と雇用環境を整えるため、合同会社農笑(のうえん)を設立し、代表社員として農業経営の確立に努めています。また、栗原市農業委員会の農地利用最適化推進委員として地域の農地利用調整にも取り組まれています。



③青年農業士 黒澤 亜希さん(栗原市一迫)

株式会社黒澤農産の取締役として、水稲を主体とした農業経営を行っています。農業生産に必要な免許を取得し、水稲及び飼料米生産のほか、ドローンによる病害虫防除の受託作業を行うなど、生産規模拡大に対応した法人経営に積極的に取り組まれています。

宮城県農林産物品評会で栗原市産品が受賞！

令和6年9月6日(金)に宮城県行政庁舎1階の県民ロビーで宮城県農林産物品評会(果実【なし・ぶどう】部門)が開催されました。栗原管内からはぶどう2点が出品され、田中学さん(栗原市金成)のナガノパープルが見事に宮城県知事賞(2等)を受賞いたしました。

栗原地域では、水稻育苗ハウスを活用したぶどう栽培が行われており、栗原圏域産地戦略プ

ランの重点振興品目に位置付けられています。田中さんは栗原市内でいち早くシャインマスカットの栽培を開始し、現在は主にシャインマスカットとナガノパープルを栗原市内で最も大きい面積で栽培しています。

研修会の際には講師を務めていただき、熟練された栽培技術を他の生産者へ普及されています。この度は、誠にありがとうございました。



【受賞したナガノパープル】



【栽培講習会で講演する田中さん】

みやぎ農業未来塾inくりはらを開催しました！

令和6年9月10日(火)に、栗原市一迫農村環境改善センターで、みやぎ農業未来塾inくりはら「若者がやりがいをもてる農業を目指して」を開催し、新規就農者、農業大学生、農業士など18名が参加しました。

研修会では、第53回日本農業賞の個別経営の部で大賞を受賞した有限会社川口グリーンセンター代表取締役の白鳥正文さんを招き、「若者がやりがいをもてる農業を目指して！」と題して講演いただきました。

白鳥さんのこれまでのあゆみ、法人設立にあたっての苦勞、後継者育成などについてお話を伺い、参加者は真剣に耳を傾けていました。

その後、意見交換を行い、新規就農者や農業大学校生からは今後の抱負が述べられ、農業士からは激励と今後の助言についての言葉をいただきました。



【白鳥代表取締役((有)川口グリーンセンター)の講演】

秋の農作業安全確認運動期間です！

農作業安全確認運動推進宮城県本部では、9月1日から11月30日までを秋の農作業安全運動の啓発活動期間として定め、農作業安全を広く呼びかけています。

秋の農繁期は、トラクターやコンバイン等での作業が増えることから、農業機械による事故に注

意が必要です。

安全フレームやキャブ付きトラクターをできる限り使用し、シートベルトやヘルメットを着用したうえで、確実な運転操作を心がけましょう。

